

センターだより



昭和48年8月1日発行 センターだより創刊号

目次

- 新年を迎えて 1
- 初代センターだより写真撮影、大相撲 武蔵川部屋の力士の皆さんがセンターをご来訪 2
- 障害者週間記念講演の開催 3
- 健康管理の話～最後に～ 4
- ときめき作品展 5
- 排使用カメラの紹介 6
- 令和5年度利用者食事調査の結果について 7～8
- 就労移行支援～リモート訓練～ 9
- スポーツ大会(モルック)の開催について 10
- 終了された方の今 11～12
- 第42回大分国際車いすマラソン大会 13
- 大分国際車いすマラソン大会外国人招待選手訪問、編集委員会よりお知らせ 14
- 終了者の状況、利用者募集のご案内 裏表紙



新年を迎えて

所長 下山 敬寛

新年明けましておめでとうございます。日頃から関係機関、地域の皆様から温かいご支援やご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年の幕開けは、元旦を襲った能登半島地震でした。地震でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された地域が一日も早く復旧ができることを心より祈っております。九州でも平成28年に熊本地震があり、その影響で別府センターはガラスの破損や建物にヒビが入るなどの被害があり、地域にお住まいの障害者の受け入れもしていたと聞いております。今年も、平時だからこそできる災害研修、避難訓練、防災備蓄品の整備・確認などにしっかりと取り組んでいくとともに、災害時には被災障害者の受入れ要請等にも対応できるようにしていきたいと思っております。

さて、別府センターの「センターだより」は、今号で記念すべき100号になりました。私自身、別府センターに赴任後、過去の「センターだより」を読むことで、これまでの施設の取り組み、地域で担ってきた役割、利用者の方々の生活の様子、これまで別府センターが取り組んできた頸髄損傷者のリハビリテーションなどについて知ることができました。昭和48年の創刊号で当時の草原所長が「入所者のご家族や、当センターに関係のある方々に、当センターの動きをお知らせすることを主なねらいとする(原文のまま)」と書いておりました。昭和48年の創刊以降、「平成」「令和」と続く今日まで「センターだより」を発行し続けてきたわけですが、これまで利用者ご家族、関係機関、地域の皆さまへセンターの様子をお伝えするという創刊時のねらいを果たしてきただけでなく、頸髄損傷者のリハビリテーションに関する情報提供なども多くの皆さまに広く発信してきたと自負しております。

最後に昨年はコロナウィルス感染症の法的な位置づけが変更になりました。別府センターでも基本的な感染対策をとりつつ、施設行事(「武蔵川部屋力士の表敬訪問」「大分国際車いすマラソン」「所内スポーツ大会」など)を再開しつつあります。昨年行事に参加している利用者、職員の笑顔を見ていると施設における行事の大切さをあらためて感じました。今回のセンターだよりではこの笑顔あふれる行事についても紹介にしておりますので、ぜひお読みください。



センターだより創刊号

庶務課 支援管理係 島本 健司

センターだより100号の編集にあたり、センターだより創刊号はどんなものだったのかという話題になり所内を探すも見つかりませんでした。そんな中、歴代のセンターだよりが大分県立図書館に保管されていることが判明したので撮影に行ってみました。製本がされている状態で厳重に保管されておりました。現在のセンターだよりはカラーによる印刷ですが、当時は白黒での印刷で新聞のようでした。過去のセンターだよりを見ていると昔のセンターの様子やどのように変化をしてきたのかがわかります。大分県立図書館に行くと歴代のセンターだよりを閲覧することができるので興味がある方は閲覧に行ってみてはいかがでしょうか。



管理棟及び職能訓練棟の完成
第2号 昭和48年12月発行



渡り廊下の完成
第12号 昭和54年5月発行

大相撲 武蔵川部屋の力士の皆さんがセンターをご来訪

庶務課 主査 丸山 由紀子

去る10月23日、別府市相撲道振興協議会の計らいで、大相撲九州場所を前に別府市上野口町の練習場で合宿を行っている武蔵川部屋から、武蔵川親方(元横綱武蔵丸)とお弟子さんの早南嶺勇次(はやなみゆうじ)さん、陽孔丸玄明(ようこうまるはるあき)さんが、利用者の皆さんの激励にご来訪されました。センターでは、各訓練室を回って訓練に励む利用者の皆さんの様子を見学した後、体育館で利用者の皆さんと一緒にボッチャを楽しみました。ひととき大きな武蔵川親方が力みなく放った一投は、狙った所にピタリと寄せて、会場に集まった利用者・職員の皆さんを大いに盛り上げてくれました。



武蔵川親方の注目の一投

障害者週間記念講演の開催

庶務課 主査 丸山 由紀子

毎年、12月3日から9日までの1週間は「障害者週間」です。「障害者週間」は、障害者基本法により、国民の間に広く障害者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的として設定されました。当センターでは、障害者週間にかかる取組として、当センター利用者（以下、「利用者」という）及び職員を対象とした記念講演を開催しました。



講演中の戸石さん

今回は「心のバリアフリーとは？」というテーマで「No limit your life」と題し、社会福祉法人東京コロニー東京都大田福祉工場就労支援課相談支援専門員の戸石 薫さんに講演をしていただきました。

実は戸石さんは当センター終了者です。戸石さんは大学在学中に休学し、世界一周の船旅に挑戦。そのさなかに、船内のプールで頸椎を損傷し四肢麻痺になりました。当センターには2014年から2016年の2年間入所されており、その後は、埼玉県の職業リハビリテーションセンターで職業訓練を受けられ、日本マイクロソフト株式会社に2年契約で入社。3か月間のアメリカ語留学を経て、2020年より、現在所属されている社会福祉法人 東京コロニー 東京都大田福祉工場の就労支援課で、自らの体験に基づき、障害のある人の相談にのるピアサポーターとして活躍されています。

講演では、ご自身の体験を中心にお話しいただき、その体験がふんだんに盛り込まれたお話とスライドは、びっくりしたり、ワクワクしたり、そして心を打たれる内容でした。なかでも印象的だったのは、戸石さんがデンマークの福祉や制度を学ぶために2021年に5か月間休職しエグモントホイスコーレ(※)に留学したときのお話です。最初の授業で先生から「インターネットで調べれば分かる事はここでは、一切教えるつもりはありません。ここに住んで経験したこと感じた事を学びとして持ち帰ってください。」と言われてハッとしたとのこと。先生から本当は何がしたいのかを問われた戸石さんは「障害を理由に諦めている多くの事に挑戦したいのかもしれない。」と答え、その後、ほどなくしてスカイダイビングに挑戦したそうです。戸石さんの挑戦の始まりを感じました。

戸石さんは、障害のある人の選択肢や可能性を広げるべく、自ら挑戦を続けていらっしゃいます。世界一周を実現することもそのひとつで、「2025年 世界一周リベンジ予定！絶対にします！」と力強くおっしゃっていました。また、「これから先の人生、たくさんの壁が現れて、心が折れることも何度もある。それでもめげずに挑戦を続けてほしい。まだまだ楽しいこと・面白いことは山ほどある。夢は絶対に叶う。」・・・「No limit your life」に込められた戸石さんの思いは、利用者みなさんの挑戦を後押ししてくれることと思います。戸石さん、貴重なご講演、ありがとうございました。

※エグモントホイスコーレ・・・デンマークにあり、障害者と健常者を分けない統合教育を行っている学校。生徒の1/3が何らかの障害を持っている。

健康管理の話～最後に～

医務課 徳永 ひろ子

まずは私の話から。私は幼少期から何でもできるしっかり者だと思っていました。しかし大人になり社会に出てからそうでもなかったことに気づきました。「気づく」ことは重要で、それから「しっかり者」ではなくなりました。幸い私は周囲に恵まれていたので甘えることを覚え、また自分なりにお返しもしてきました。人の関係はgive and takeだと思います。その人にしかできない役割は必ずあります。私などは本当に人様に迷惑ばかりかけているので、皆様には感謝しかありませんが、これからも感謝の気持ちを忘れずに少しずつ恩返ししていきたいと思っています。

前置きが長くなりました。さて、センターを利用する大半の方は病院での治療を終えてから来られます。病院では医師や看護師に手厚く手当てを受け、社会復帰する前にセンターを利用することになります。ただこの段階では、センターにも医師や看護師がいて治療の延長のようなイメージから抜け出せないでいるかもしれません。センターと病院では何が違うのかというと、治療ではなく社会で生活する(やむなく施設入所の方もいらっしゃいますが)ための準備をするところだということです。生活するための訓練を行い、介助法や健康管理の方法を学びます。地域によってはまだ頸髄損傷の方々を受け入れたことがないという事業所があります。私たちも情報を提供しますが、自身で自分の体について伝えられるようになってほしいと思います。センターにいる間に学習して自分の人生を人任せにせず、主体的に自己管理することを心掛けてほしいと思っています。そして地域で役割をもって生きていってほしいと願っています。

私はこの春から新しい道を歩み始めます。周りの助けを借りながら、私自身も多少なりとも何かの役に立てるようなそんな人になれるといいなと思います。皆様も自分や周りの人を大切にして健康で幸の多い人生を歩んでください。

在宅生活ハンドブック改訂されました！！



看護部門5分冊



No.18在宅での排尿管理
カテーテルの種類が追加!



No.11在宅での排便管理
ビニール袋排便を紹介!

ときめき作品展

支援課 生活訓練専門職 水谷 彰

11月8日から19日にかけて大分県立美術館1階アトリウムプラザにおいて「ときめき作品展」が開催されました。社会参加訓練では、平成14年度の初回開催から毎年出展しており、今年も7名の訓練生の手織り・トールペイントの作品を出展しています。

開催7日目の14日には、出展した訓練生の方々を中心に作品展の鑑賞にも行きました。みなさん、自分たちの作品だけではなく他の作品にも興味津々に見入っておられ、今後の作品制作の意欲向上にも繋がっています。

今後も日頃の訓練の成果を発表・展示する機会を少しでも多く持つことで、地域のより多くの人に当センターの存在を知ってもらい障害者に対する理解を求め、また、訓練生の作品制作への意欲向上や終了後の余暇活動や地域参加等に向けた継続の機会に繋がっていきたいです。

アトリウムプラザにて



排使用カメラの紹介

医務課 作業療法部門 岩下 裕造

頸髄損傷者の排便支援では、排使用カメラを活用することがあります。当センターでは、平成19年より使用している排泄支援カメラ装置で問題なく活用できている状況があります。しかし、技術の向上に伴い現状の排泄支援カメラ装置よりも安価かつ優れた機能で代用できる製品が増えてきており、利用者の選択肢の拡大のためにそれらの製品も代用可能であることを確認したため一部の例を紹介します。

○比較

	A (従来カメラ)	B	C
写真			
価格	25,000 円程度	6,000 円程度	4,000 円程度
モニターとの接続	有線	Wi-Fi	有線
実際の画像			
入手方法	製作会社受注生産	インターネット販売	インターネット販売
備考	別途モニター必要	防水ケース必要	モニターセット

○各商品の特徴

- ・ 従来カメラ：視認性は良く、専用の排使用カメラであるため便器内の取り付けも容易に行えます。モニターに有線接続であるため置き場所に配慮が必要です。また、モニターとセットで購入すると40,000円と高価です。
- ・ Bカメラ：視認性は良く、映像はWi-Fiでスマートフォンに映せるため、場所を広く使用できます。専用の防水ケースが必要であり、電力供給はバッテリーであるため、充電時につけ外しが必要です。また、便器内への取り付けは工夫が必要です。(元来の使用用途は小型防犯カメラ)
- ・ Cカメラ：視認性は良く、モニターセットでありながら安価です。車用のバックカメラであるため防水仕様となっています。設置には工夫が必要です。

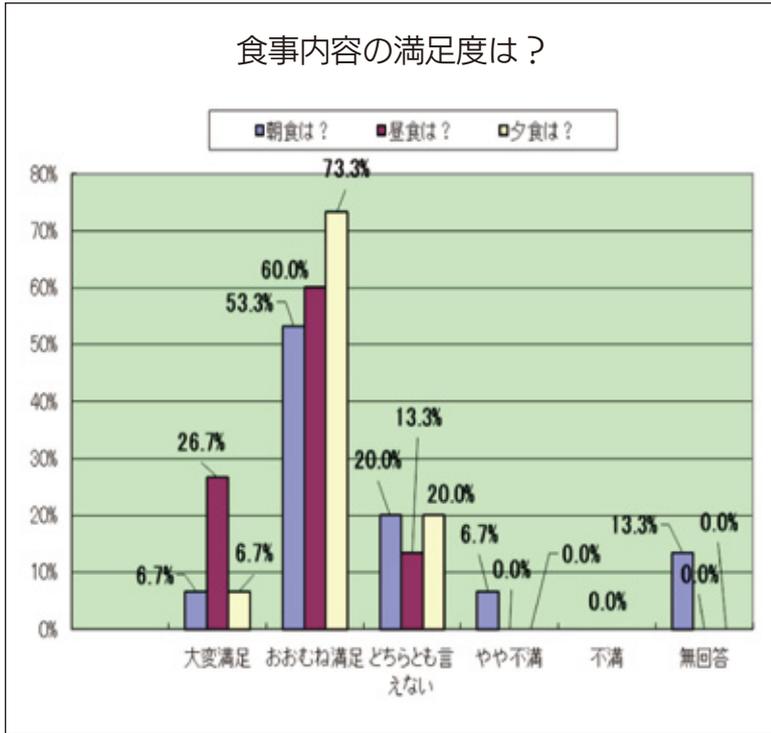
○最後に

今後も利用者の選択肢を広げられるように情報収集を行っていき、より良い支援を提供していきたいと思っております。

令和5年度利用者食事調査の結果について

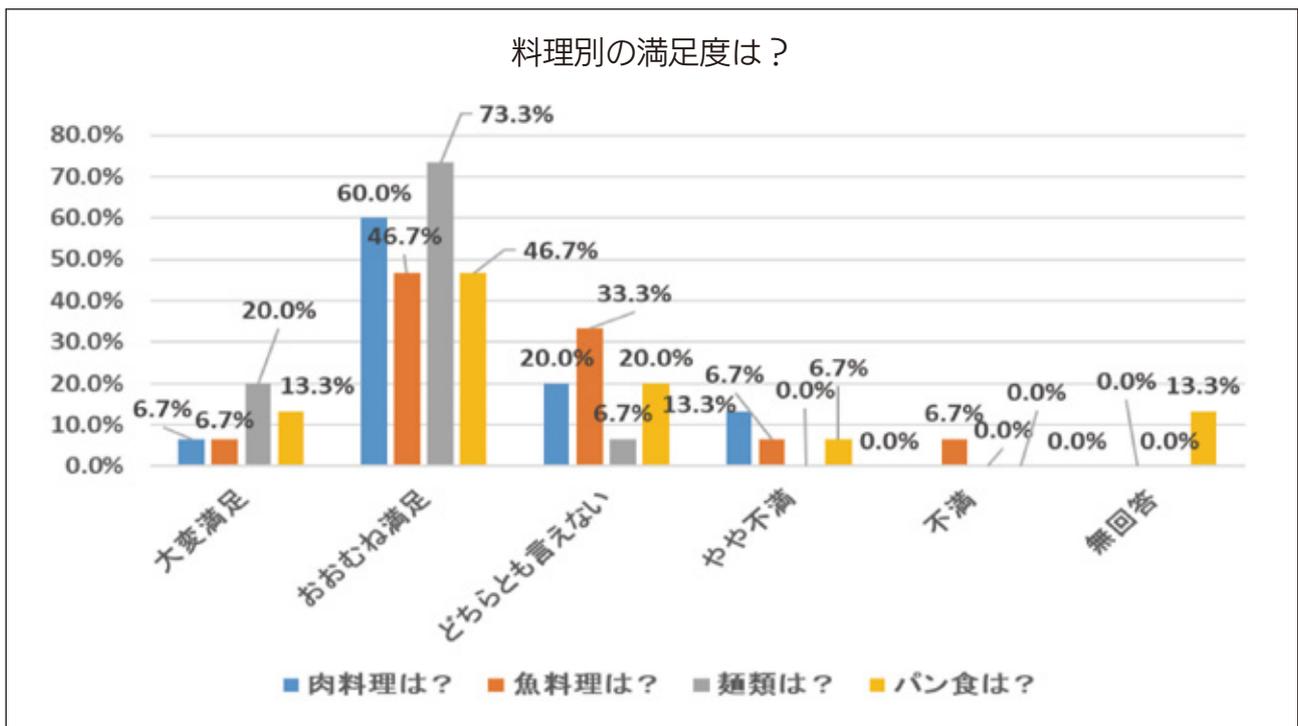
庶務課 栄養係長 松岡 里佳

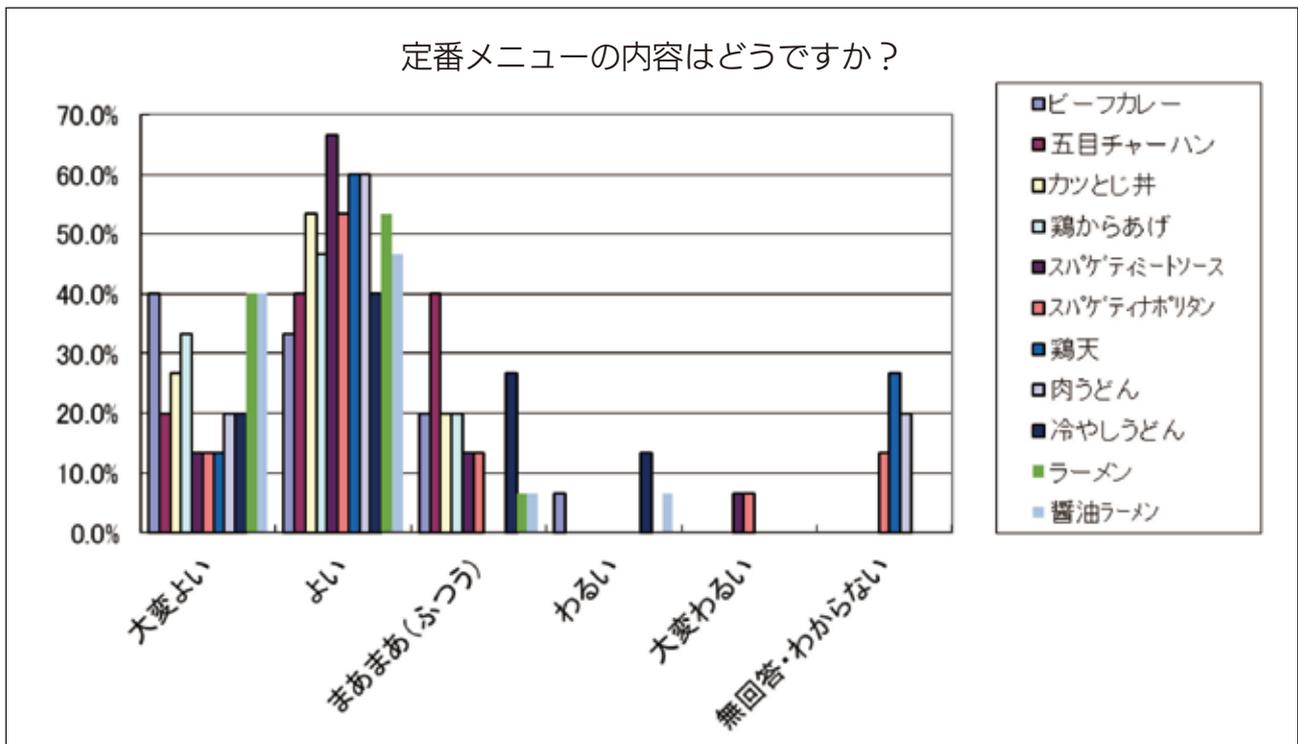
今年度も利用者に対する食事サービス向上を目的とした食事調査を実施しました。令和5年9月21日に在籍する利用者全員に対して、お一人ずつ対面でアンケートに回答いただき、率直な感想もお聞きすることができました。調査にご協力いただいた利用者の皆様にあらためて感謝申し上げます。



食事内容の満足度については、朝食は60%、昼食は86.7%、夕食は80%の方に満足との回答をいただきました。

また料理別の満足度では、肉料理が66.7%、魚料理が53.4%、麺類が93.3%、パン食は60%でした。不満の理由としては、「肉が硬い時がある。」「魚がくさい時がある。」「おいしくない。」との意見をいただきました。肉が硬くならないようヨーグルトを使用したり、魚のくさみ取りのためにお酒を使用したりするなど、今後も工夫して提供していきたいと思っております。





当センターでは、利用者からの要望が多い人気メニューを定番メニューと名付けて、月・水・金曜日の昼食は、いつもの栄養士メニューと定番メニューのどちらかを選択できるようにしています。定番メニューの内容については、全体的に「よい」の回答が多く好評です。また毎回調査時に新しい定番メニューのご希望を聞いています。今回は「オムライス」「チャーシュー井」の意見を採用し、令和6年1月から定番メニューとして、それぞれ月1回程度登場する予定としています。

最後に個別の意見要望を伺いましたところ、「揚げ物の衣をとってほしい。」「マーガリンがついたときはジャムに替えてもらえるとうれしい。」「タバスコを調味料として置いてほしい。」など、要望をいただきましたので、できることから対応しています。今後とも丁寧な対応に努めたいと思います。



←(左) カツとじ井の献立

↓(下) 肉うどんの献立



どちらの定番メニューも人気です。(^^)

就労移行支援～リモート訓練～

支援課 就労支援専門職 徳山 和揮

令和2年10月から就労移行支援を開始し、はやくも3年が経過しました。今まで、当センターの就労移行支援は対面訓練を中心に行っていましたが、令和5年10月からは、Zoomを使用したリモート訓練を主とした取り組みも開始しました。リモート訓練とはいえ、月に1回はご自宅を訪問する必要があるため、現在は近隣県(2名)の方に対して訓練提供を行っています。今後、訓練地域の範囲を拡大できたらよいなと感じます…。

早速ですが、当センターのリモート訓練の内容について、ご紹介します。

- ①PC操作基本訓練(使い方やタイピング等)
- ②Office系ソフトの操作獲得・習熟訓練
- ③一般教養の学習
- ④データ入力等の作業耐久性向上の訓練
- ⑤就職活動準備訓練(履歴書作成、面接練習等)
- ⑥就職活動支援
(障害者就業・生活支援センターやハローワーク等との連携、企業へのアプローチ)
- ⑦その他相談(環境相談、車椅子相談、健康管理・介助方法の相談等)

これらの訓練は、①、②は職業指導員が行い、③～⑥はCWが中心となって訓練を行います。⑦は、当センターに多職種(PT、OT、看護師、介護福祉士)が在籍している長所を活かし、適切な情報提供・アドバイスをしています。

リモート訓練を開始した当初は、無料版のZoomで訓練を行っていたこともあり、40分間で一旦切れてしまうという困難さがありましたが、有料版Zoomを購入し、時間の制約がなくなりました。現在のリモート訓練は、利用者1名に対し、職員1名で一对一の訓練を行っていますが、訓練内容を踏まえて利用者複数名での集団訓練も検討したいと考えています。



リモート訓練風景

当センターもリモート訓練を開始したばかりで、ノウハウが十分とは言えませんが、訓練を提供するなかで、利用者の方にもご意見を伺いつつ、ニーズに即して臨機応変な訓練提供を行っていきたいです。

スポーツ大会（モルック）の開催について

支援課 生活支援専門職 吉川 杏美

12月14日(木)に当センターの体育館にてスポーツ大会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、人が集まる行事がなかなか実施できていませんでした。毎年恒例だったスポーツ大会も3年間未開催となっていました。この度は、規模を縮小し、モルック大会を開催しました。

今回行うモルックは、通常のものとは違い、頸髄損傷の方でも倒しやすいよう、少量の水を入れたペットボトルを立てて、ポッチャのボールを転がして倒します。

今回は、利用者と職員の混合6チームで熱戦を繰り広げました。まずは、3チームごと予選リーグ、その後は、各リーグの上位2チームの決勝トーナメント、敗者戦を行いました。3時間を超える長丁場を制したのは、Aブロックを2位で通過したチーム名『むかいのチーム』。見事、リーグ戦の雪辱を決勝リーグで果たす形となりました。単純なように見えて奥深いモルック競技に利用者も職員も大盛り上がりで、笑顔のはじける楽しい時間となりました。優勝した『むかいのチーム』はじめ、参加したみなさん、大変お疲れ様でした。

今回企画したモルック大会をはじめ、定期的な行事の開催に向けて、今後も検討を継続していきます。



終了された方の今

支援課 主任就労支援専門職 中山 修司

当センターを利用される方の中には、学生生活中に受傷し、センターでのリハビリを経て復学する方もいます。休学期限が決まっている場合、まずはそれに合わせて最低限の動作を獲得し、学生生活を送る環境を整えます。復学し、学業を修めた後に再度センターを利用して、初回利用時には獲得できなかった動作の獲得を目指します。今回は、復学して卒業後に再びセンターでリハビリを行い、就職された方をご紹介します。

〇さん 平成28年11月から平成30年8月までセンター自立訓練を利用。大学へ復学し、薬剤師の資格を取得。その後、自動車の運転動作獲得を目標に、令和3年7月から再度センターを利用。在籍中に、別府市内の病院にて週に1日、薬剤師として勤務。並行して地元での就職活動を行い、見学や実習を経て、地元市内の病院に薬剤師として就職。

【現在の生活状況】

6時 起床 → 7時半 出勤 → 8時 職場到着 → 8時半から15時 勤務 →
16時 帰宅 → 17時から18時半 入浴(月・水・金) → 23時 就寝
平日は毎日勤務しており、休日はゆっくり過ごしているとのことでした。

【生活環境】

自宅への出入りは玄関横の掃き出し窓に設置された段差解消機を使用しています。本人の自室及びトイレ、浴室の改修工事を行いました。入浴はヘルパーを利用しており、それ以外のサービス利用はありません。相談支援事業所やヘルパーは、本人の状況をしっかりと把握し、本人の意向に沿って支援を行って来ています。



自宅への出入り状況



作業風景

【勤務内容】

勤務時間は8時半から15時までです。(昼休憩は11:30~12:30まで)

職場での作業は主に、監査(分包された薬の内容が医師の処方通りとなっているかチェックする)、PCを使ったデータ入力(新しい入院患者の服薬状況、これまで服用していた薬に変更が生じる場合には薬価計算等)を行っています。分包された薬袋シートを、ハサミを使用して切り分けるといったこともしています。

職場での本人への配慮事項として、本人作業スペース（監査時、PC使用時）が確保されています。また、薬袋をステイプラーで固定する作業は難しいため、その作業が必要な際は、目印※を入れて他のスタッフに依頼できるようになっています。

※右写真参照 黄色いタグが目印



監査作業



PC作業

【勤務状況】

これまでに、尿路感染による体調不良で1日だけ欠勤することがありましたが、ほかは安定して毎日出勤することができています。Oさんの体調管理がきちんとしていることに加え、職場の方の配慮もあり、勤務しやすい職場環境となっていることが安定した勤務となっているようです。

【通勤方法】

現在はご家族や親戚、代行業者による送迎で通勤しています。自身が自動車を運転して通勤するのは、現時点では体力面の問題から、あまり実用的ではない状況です。またこの場合、自動車改造を行う必要もあり、こちらは今後も継続してフォローしていきます。

今回、職場での勤務状況を見学させてもらい、安定して出勤できていることに安心しました。職場の方にOさんの勤務状況についてお伺いしたところ、作業や言葉遣いがとても丁寧で自分たちも見習いたい、またOさんがパソコンの知識に秀でることから、操作方法で不明な場合にはOさんに教えてもらう場面も多くあり、大変助かっているというお話でした。Oさんの穏やかな人柄が職場の方にも受け入れられ、頼りにされていることを知り、就職が実ったことをとても嬉しく思いました。

ご自宅にも伺い、地域の支援者も交えて、現在の生活状況や今後のことについてお話を伺いました。今は短時間勤務ですが、現在の安定した勤務状況からも、いずれはフルタイム勤務も視野に入れることが可能な状況です。ただ、フルタイムとなれば今の生活リズムも変更せざるを得ない部分もあり、地域の支援者の方々とも相談しながら進める必要があります。こういった相談や、現状の支援についての質疑を受ける中で、地域の支援者の方々もOさんのことを第一に考えて、支援されていることを実感しました。

目標としていた地元の就職が叶い、安定した生活を送っているOさんですが、まだまだ伸びしろはありますよ。ますますのご活躍を期待しています。

第42回大分国際車いすマラソン大会

医務課 運動療法士長 木畑 聡

「写真とるから2人で並んで」ゴール後、早くヘルメットを取りたいところ、記念撮影です。令和5年11月19日(日)開催された第42回大分国際車いすマラソン大会ゴール後の1枚です。

当センターは平成に入ってから長年途切れることなくこの大会に参加者を出してきました。2020年に始まった新型コロナウイルス感染拡大。その影響は大きく昨年はずいぶん参加者なし。このまま大会参加が途切れるのかとの不安を感じていましたが、2名の利用者が大会参加に名乗りを上げてくれたのです。

清水佑太さんは、15年前から大分国際車いすマラソン大会に参加し続けています。ハーフマラソンを完走することが大変な最重度クラス(T51)の選手です。10年ほど前に一度完走したことがあります。再度完走することを目標にしてのチャレンジでした。

濱田大星さんは、受傷前からスポーツで体を動かすことが好きな青年です。車いすマラソンへの取り組みが可能性を広げるチャンスと考え参加しました。

練習は6月から週に2回ほど行ってきました。2人とも体調を崩したり、調整事で練習ができない時期もありました。いろいろなことはありましたが、大会直前にはしっかりと自分の力を出し切れれば目標は達成できそうな状況にまでコンディションは整いました。

当日は絶好のコンディション。2人ともよい表情でスタートラインに並ぶことができました。結果は冒頭に述べたとおり「完走」できました。

濱田さん1時間56分05秒、清水さん1時間58分46秒で自己ベスト、T51クラス2位にもなり表彰も受けました。芝生の上で季節はずれの暖かい日差しの中、参加者の2人とサポートの職員、皆さん和やかな時間が過ぎていきました。

今回の大会は、新型コロナウイルスが5類になったことで、多くの制限が解除されました。大会参加者も昨年よりも大幅に増えています。しかしながら、T51クラスについては、戻ってきていない選手もいます。練習の環境を整えたりモチベーションを高めることは大変だと思います。来年はひとりでも多く、OB・OGの方と再会できること心待ちにしています。



大分国際車いすマラソン大会外国人招待選手訪問

医務課 運動療法士長 木畑 聡

第42回大分国際車いすマラソン大会に招待選手として参加したピーター・ドゥ・プレアさん(南アフリカ)が、大会直前の11月14日にセンターを訪問されました。

ピーターさんは、T51クラス(C6レベル)のフルマラソン世界最高記録(2時間22分33秒)保持者です。平成27年から毎年、センター選手に激励やコーチングを行っていただいています。奥様とご息子のピートマン君、ハインリッヒ・クーベールさんの奥様グッドランさんも一緒に。

ハインリッヒ・クーベールさんはピーターさんの車いすマラソンの師匠です。ピーターさんがセンターに訪問される前は、クーベールさんとグッドランさんに訪問いただき、当センター選手に、マラソンに取り組む心構えから練習の方法、レース用車椅子のデザインに至るまで多くのことを教えていただきました。おかげでセンターから多くの利用者が車いすマラソンにチャレンジすることができました。気さくな人柄で、ピーターさんを始め多くの選手に影響を与えてきたクーベールさんですが、令和5年4月に77歳でお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。

ピーターさんもクーベールさんの意思を継ぎ、私たちに惜しみなくいろいろなことを教えてください、今後も交流が続くことを願っています。



センターだより編集委員会よりお知らせ

センターだより第100号まで郵送でお送りしていましたが、次号からHP上のWEBでの発刊となります。これまで通り郵送をご希望の方はセンター庶務課までご連絡をお願いいたします。

終了者の状況

令和5年7月1日～令和5年12月31日

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	復職	就労移行支援	就労支援施設・能開校	他施設	進学復学	その他	計
人数	10	0	0	1	1	0	0	0	0	12
比率(%)	84	0	0	8	8	0	0	0	0	100

別府重度障害者センターYouTubeチャンネル開設のお知らせ

別府重度障害者センターについて、分かりやすくご説明するための動画を作成しました。ぜひ、ご覧ください！



X (旧Twitter) もはじめました。
イベントやお役立ち情報を配信中！



役立つ情報満載！
HPもご覧下さい

<http://www.rehab.go.jp/beppu/>



電話 (0977) 21-0182 (利用相談) FAX (0977) 21-2794